

よく分かる検査値の見方

基準値とは、検査結果の「ものさし」で、検査方法や測定機械により異なります。受診した医療機関により検査結果に差が出ないよう、当院では施設間差是正のため標準化に取り組んでいます。患者様が結果をご覧になれるとき、基準値はあくまでもひとつの「めやす」とお考え下さい。検査結果の詳細は主治医にご相談ください。

血液凝固

PT(プロトロンビン時間)

小さい傷の出血を止める役目をする物質の量を測ります。血をさらさらにする薬を飲むと延長します。

【基準値】
10～13秒
INR:0.85～1.15

血球算定

WBC(白血球数)

身体を細菌やウイルスから守る働きがあります。細菌に感染したり炎症で上昇します。

【基準値】
3500～9500 個/ μ l

PLT(血小板)

出血した時に血を止める働きがあります。減少すると血がとまりにくくなります。

【基準値】
14万～35万 個/ μ l

Hb(ヘモグロビン)

赤血球中の大部分がヘモグロビンで、鉄を含み酸素を運びます。

貧血の診断に欠かせません。

【基準値】
男性:13.7～17.6 g/dl
女性:11.2～15.0 g/dl

尿検査

* 随時尿の量や成分等を調べる事で、腎臓や尿路系の異常だけでなく、いろいろな病気の発見を行えます。

【基準値】
尿蛋白:陰性
尿糖:陰性
尿潜血:陰性



* 尿中微量アルブミンは糖尿病性腎症の早期診断に用いられています。

【基準値】30mg/L未満

* ケトン体の存在は糖尿病や嘔吐・下痢による脱水状態等を示唆します。

【基準値】陰性

感染症

HBs-Ag(HBs抗原)

B型肝炎ウイルスの現在の感染を示します。

【基準値】
陰性
0.05未満 IU/ml

HCV-Ab(HCV抗体)

C型肝炎ウイルスに感染中か過去に感染したことを意味し、陽性の場合C型肝炎ウイルスの存在を確認する必要があります。

【基準値】
陰性
1.0未満 S/CO

代謝・機能

AST(GOT),ALT(GPT)

代表的な肝機能の指標です。肝炎等肝細胞障害で上昇します。ASTはその他、心筋・骨格筋障害でも上昇します。

【基準値】
AST: 13～33 IU/L
ALT: 8～42 IU/L

LD(LDH)

全身の組織や臓器に分布する酵素です。肝臓、心臓、筋肉、血液疾患等で上昇します。

【基準値】
119～229 IU/L

GGT(γ -GTP)

肝・胆道疾患で上昇します。アルコール性肝障害や薬剤性肝障害でも上昇します。

【基準値】
15～70 IU/L

AMY(アミラーゼ)

主に膵臓や唾液腺より分泌される消化酵素です。急性膵炎や耳下腺炎等で上昇します。

【基準値】
40～126 IU/L

T-CHO(総コレステロール)

食事からの摂取と体内(主に肝臓)での合成から得られます。濃度が高いと動脈硬化が促進されます。

【基準値】
128～219 mg/dl

TG(中性脂肪)

食事の主要な脂肪成分で、動脈硬化の危険因子です。食事の影響を受けやすく、食後に増加します。

【基準値】
30～149 mg/dl

HDL-C(HDLコレステロール)

血中に余ったコレステロールを肝臓に戻して動脈硬化を防ぐ働きをします。善玉コレステロールとも言われます。

【基準値】
40以上 mg/dl

LDL-C(LDLコレステロール)

コレステロールを抹消に供給するため動脈硬化の危険因子であり、悪玉コレステロールとも言われます。

【基準値】
70～139 mg/dl

CRE(クレアチニン)

腎機能の指標。腎臓の濾過機能によって左右されます。

【基準値】
男性:0.60～1.10 mg/dl
女性:0.40～0.70 mg/dl

UA(尿酸)

痛風の原因となる物質で、高値になれば腎障害・尿路結石の原因にもなります。

【基準値】
男性:3.6～7.0 mg/dl
女性:2.3～7.0 mg/dl

GLU(血糖)

糖尿病かどうか解ります。インスリン不足や働きが悪くなると高くなります。放っておくと知らないうちに、全身の血管が傷んできます。

【基準値】
(空腹時)70～109 mg/dl

HbA1c(ヘモグロビンA1c)

過去1～2ヶ月の血糖の平均を表しています。糖尿病で高くなります。

【基準値】
4.6～6.2 %(NGSP値)

CRP

細菌感染や急性炎症があるとその濃度が上昇します。

【基準値】
0.2以下 mg/dl